

地域コミュニティ組織

自分たちの地域は
自分たちでつくる。

「地域づくり計画」を策定しています

～地域の課題解決や魅力の創出を目指して～



▲地域の防災力向上のため防災ワークショップを開催（竹野南地区コミュニティわいわいみな・み）

本市では、地域コミュニティのあるべき将来像とその実現のための方法を示した「豊岡市地域コミュニティビジョン」を2020年2月に策定しました。このビジョンを指針に、昨年度から多くの地域コミュニティ組織がそれぞれの地域づくり計画策定に取り組んでいます。《問合せ》コミュニティ政策課 ☎21-9020

10年後の地区の将来像を描く

地域づくりを計画的、効果的に推進していくためには、地域づくりの基本的な考え方を明確にした計画を作る必要があります。

地域づくり計画では、地域の資源、魅力や課題を洗い出し、これを踏まえて10年後の目指す地区の将来像を描き、その将来像の実現に向けて、何をするのかを考えます。

地域の皆さんのご意見をお寄せください

地域づくり計画策定においては、さまざまな住民を交えた検討会、ワークショップや住民アンケートを行い、地区住民の声を聴いて計画に反映していきます。計画段階から地区住民が参画することで、我が事として地域づくりが広がっていくことが期待されます。

皆さんの地域の、地域づくり計画に関するアンケートやワークショップに積極的に参加してください。

耳より情報

コミュニティセンター全館に
フリーWi-Fiを設置



無料で使えるフリーWi-Fiを設置しています。

地域の皆さんも活用してください。

地域づくり計画に盛り込む内容

- 1 地域の概要
- 2 地域の資源や魅力
- 3 地域に発生する問題や困りごと
- 4 10年後の目指す姿
- 5 取り組むべき活動や事業
- 6 年度別の事業スケジュール
- 7 その他の資料・各団体の概要や地図など

※掲載している情報は編集時点(9月14日)のものです。変更になっている場合がありますので、注意してください。

地域づくりの取り組みを紹介します

コミュニティなかすじ

災害に強い地域を目指して活動中



タカ目・助け合い部部長
堀田政司さん

今年度から、地域づくり計画に沿って、各部が事業を開始しています。部会の一つ「タカ目・助け合い部」では、中筋が風水害の被害が想定される地区のため「中筋地区が安心して安全な地区となっている」を目標に、安全な避難方法を周知する事業、防災力を強化する事業を行っています。すでに「避難所運営マニュアル(風水害編)」を作成していて、新型コロナに伴う「災害時の避難」に関する啓発チラシも作成し、地区内の全世帯に配布しました。さらに、今年は「災害時持ち出し品リスト」を追加し配布しました。避難所は自分たちが主体となって運営するという意識を持ち、避難所に避難する方はお客様ではないことも啓発し、災害に強い地域づくりを進めています。

災害時持ち出し品リスト

忘れ物ありませんか？

食品・飲料水 缶詰・レトルト食品 ビスケット・チョコ 缶詰・レトルト	飲料水 缶詰・レトルト食品 ビスケット・チョコ 缶詰・レトルト	衣類 下着 タオル・ハンカチ 靴下・スリッパ	貴重品 現金・宝石・眼鏡 免許・免許証 印鑑・印鑑	洗面 歯ブラシ・歯磨き粉 シャンプー・洗剤 石鹸・洗剤
常備薬 処方箋 お薬手帳	携帯 ラジオ 充電器	ランブ 懐中電灯 充電器	携帯 充電器 電池	スリッパ 雨具・傘 手袋
頭巾 ヘルメット	筆記 用具・メモ帳 ボールペン・鉛筆	季節 用品・靴下・タオル タオル・ハンカチ	生活 用品・タオル ティッシュ・ウェット ティッシュ	新聞紙 ビニール袋

▲地域で自主作成した災害時持ち出し品リスト(一部)

コミュニティたけの

みんなが参加しやすい会議の時間を考える



地域づくり策定委員長
田中健太郎さん

地域づくり計画に、性別・年代・背景の異なる多様な方々の意見を取り入れたいという思いから、女性が半分、移住者も含んだ、平均年齢40代半ばの地域づくり策定委員会を設置し、計画策定の検討を進めています。

委員会では、女性が参加しやすい時間に会議をしてみようと、試験的に平日の昼間に会議を実施しました。

参加者から「今までは、会議は毎回夜7時からと決まっていた。しかし自分に合わせてもらって、出席者が少なかったら心苦しい」「毎回参加者の都合を聞き、みんなが出席しやすい日時を決める方がいい」との声が出て、みんなが出やすい会議についてさらに検討をしています。



▲女性が参加しやすいように平日の昼間に実施した会議

高橋振興対策協議会

小学生が先生のダンス教室などを実施



高橋振興対策協議会会長
小峠恵介さん

高橋地区では、2015年に策定した地域づくり計画を見直すため、昨年12月に幼児から、高齢者までの、全住民アンケートを実施しました。

このアンケートでは、子どもたちに地域のためにできることを質問したところ「得意なことを教えます」という回答がありました。コロナ禍で地域外からの講師がお願いしにくい状況であるため、地域内の人材を活かし、地域の方が講師となって開催している講座「高橋メダカの学校」にて、子どもたちにも講師になってもらい、ダンスや折り紙など得意なことを教えてもらっています。

このほか、身近で気軽な内容をテーマにした講座「ちょこっと掃除」「ちょこっとグリーン」などを開催し、地域の交流が広がっています。



▲子どもの発案で始まった子どもが先生のダンス教室

※掲載している情報は編集時点(9月14日)のもので、変更になっている場合がありますので、注意してください。